



東京文化発信プロジェクト
東京から生まれる新しい文化の源

F/T09 ^{AUTUMN} 秋

フェスティバル/トーキョー

PRESS RELEASE

お問合せ:

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨 4-9-1 にしすがも創造舎 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン内

TEL 03-5961-5202 FAX 03-5961-5207 toiawase@anj.or.jp

<http://festival-tokyo.jp/>

9月よりモバイルサイトもオープン予定!

／開催概要

名称	フェスティバル/トーキョー09 秋 Festival/Tokyo 09 autumn
会期・会場	2009年10月23日(金)～12月21日(月) 東京芸術劇場 中ホール 小ホール1 あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター) にしすがも創造舎 シアターグリーン 世田谷パブリックシアター
プログラム	F/T パフォーマンス 16 演目 F/T 参加作品 4 演目
主催	東京都 東京文化発信プロジェクト室(財団法人東京都歴史文化財団) フェスティバル/トーキョー実行委員会 豊島区、財団法人としま未来文化財団、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン
共催	社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター
協賛	アサヒビール株式会社、株式会社資生堂
助成	財団法人アサヒビール芸術文化財団
後援	外務省、社団法人日本芸能実演家団体協議会、社団法人日本劇団協議会
特別協力	西武百貨店池袋本店、東武百貨店池袋店、サンシャインシティプリンスホテル ホテルメトロポリタン
協力	東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、 豊島区観光協会、社団法人豊島産業協会、社団法人豊島法人会
宣伝協力	株式会社ポスターハリス・カンパニー
認定	社団法人企業メセナ協議会
平成 21 年度文化庁国際芸術交流支援事業	
F/T 提携事業	アジア舞台芸術祭 2009 東京

／ 開催趣旨

この度、東京都、豊島区、東京文化発信プロジェクト室(財団法人東京都歴史文化財団)、財団法人としま未来文化財団、NPO 法人アートネットワーク・ジャパンは、第一回「フェスティバル/トーキョー09 春」(09 年 2-3 月開催)に引き続き、第二回目となる「フェスティバル/トーキョー09 秋」を開催する運びとなりました。フェスティバル/トーキョーは、今日の世界のリアリティとその表現の可能性を問い、舞台芸術ならではの「いま、ここ」の体験を育む場として誕生した、東京発の国際的な舞台芸術の祭典です。

第一回目のフェスティバルでは、新作・世界初演を含む全 19 演目および関連プログラムにおいて、6 万人を超える観客がフェスティバルという場を体験・共有し、名実共に日本を代表する国際舞台芸術祭として順調なスタートを切りました。

続く第二回目は、開催時期を春から秋に移行し、2010 年以降は秋の開催を予定しています。09 秋の開催では、全 20 演目、約 110 公演がフェスティバルを彩り、うち新作・世界初演が 5 演目、フェスティバルの製作・共同製作作品は 7 演目に上ります。世界の最先端のクリエイションを時差なく日本で紹介するとともに、国内で注目を集めるアーティストの作品を製作し、世界に向けて発信することを目指します。また、開催地は引き続き豊島・池袋エリアの 3 会場(東京芸術劇場、あうるすぽっと、にしすがも創造舎)に加え、池袋東口の民間劇場シアターグリーンまで拡大し、地域に根ざしたフェスティバルとしてさらなる認知と協働に努めてまいります。

プログラム面では、春と秋を対となるプログラムと位置づけ、春と秋で共通のアーティストを積極的にラインナップし、フェスティバルのカラーを強く打ち出していきます。一方、第一回で話題をさらった「おやじカフェ」など、市民が主体的に参加できるプログラムや ワークショップ、レクチャーなどのアウトリーチ企画をさらに拡充し、舞台芸術のリアルな魅力を伝える仕組みをさらに充実させてまいります。

私たちはこのフェスティバルの開催を通じて、同時代のアーティスト、そしてそこに参加するすべての市民とともに、次の時代を切り拓く新しい価値の創造に着手し、国際都市トーキョーから世界に向けた創造と発信を推進していきます。

フェスティバル/トーキョー主催者一同

東京文化発信プロジェクトとは

東京文化発信プロジェクトは、東京ならではの芸術文化の創造・発信と、芸術文化を通じた子供たちの育成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体、アート NPO 等と協力して実施しているプロジェクトです。

演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベント、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、子供向けの体験型プログラムなどの事業を展開しています。東京文化発信プロジェクトに参加し、東京の文化を体験・創造してみませんか。

／フェスティバル／トーキョー コンセプト

フェスティバル／トーキョー
プログラム・ディレクター
相馬千秋

リアルは進化する

「あたらしいリアルへ」というテーマのもとに開催された第一回フェスティバル／トーキョー09 春。1ヶ月の会期中、19 演目、128 ステージに、6 万人を超える観客、500 名を超える出演者やスタッフが集った。その場を共有したアーティストと私たちが確かに感じた「いま、ここ」のリアルは、いよいよ続く第二回フェスティバル／トーキョー09 秋において、いかに引き継がれていくのだろうか？

今回の第二回目より、開催時期が春(2 月-3 月)から秋(10 月-12 月)に移行される。この変更によって、中長期的な展望のもと主催団体や助成機関とのパートナーシップをさらに強化し、より安定的なフェスティバル運営を目指す。また、10 月初旬のソウル、10 月中旬の上海などに連動する形で、秋をアジアのフェスティバル・シーズンと位置づけ、今後アジアから生まれる作品の創造と普及にも腰をすえて取り組んでいきたい考えだ。

開催時期の変更に伴い、2009 年は例外的に春と秋の2回にわたり連続開催することとなった。準備期間が極端に短いことを逆手にとって、春と秋を対となるプログラムと位置づけ、複数のアーティストに春から秋へ連続して参加を依頼し、F/T が目指すべき方向性をより鮮明に打ち出すことにした。「いま、ここ」の芸術である演劇というメディアの可能性を問う、という基本姿勢に変わりはない。これだけメディアが多様化し、情報伝達が単純化・高速化する今日、「その場、その時間」を共有することでしか成り立たない舞台芸術が伝えるものは何か？ その力とはどういうものか？ それは経済危機の脅威にさらされた私たちの日常やコミュニティにとって、いかなる役割を担うのだろうか？ そして、東京という都市が映し出す無数のリアルを前に、私たちは演劇というメディアを通じていかに応答することができるのだろうか？ これらの問いと向き合う姿勢として「あたらしいリアル」への探求を継承しつつも、それをさらに進化させる挑戦が続く。

この基本コンセプトに呼応する提案として、今回は 20 もの演目を紹介することになった。F/T が主催するのが 16 演目、F/T と同時期に東京芸術劇場で上演される参加作品が 4 演目。F/T 主催演目のうち、新作・世界初演が 5 作品、F/T が国内外の劇団や劇場、フェスティバルとの共同製作に参加しているものが 7 作品。既存の作品のリクリエーションあるいは日本バージョン制作が 3 作品となっており、作品を創造するフェスティバルとしての機能を強く打ち出している。

春で提示された「あたらしいリアル」のさらなる進化形として、超越的なイメージの力によって、まだ見ぬリアルを探求する作品を集中的に制作・上演する。春には初の東京公演でセンセーションを巻き起こしたロメオ・カステルッチは今回、ダンテの神曲を現代の形而上学として再解釈し、私たちの前にまだ見ぬ「地獄」「煉獄」「天国」を提示することになるだろう。松本雄吉率いる維新派は、野外も使った大胆な空間演出と想像力で「路地」の原風景へと私たちを連れ去る。春の『転校生』で衝撃を残した飴屋法水は今回サラ・ケインの伝説的戯曲に對峙し、言葉、身体、音の拮抗の中に演劇の彼岸を見せてくれるだろう。またタニノクロウ率いる庭劇団ベニノは、シュールで過剰なイメージによって人間心理の裏側を独自の感性で描き出す。こうしたアーティストが、人間や動物の生身の身体存在によって、また、五感を狂わせるほどの強烈な映像・音響によって出現させる世界は、いかに日常の現実を超えて、「まだ見ぬリアル」の彼方へと私たちを導いてくれるのだろうか。上記いずれの作品も、フェスティバルが製作あるいは共同製作に参加する形で深くコミットした新作である。

春から続くもうひとつの流れに、現実のドキュメンタリー性を利用した一連の作品群がある。春では、プロの俳優ではない人々が舞台上に上がる作品にフォーカスし大きな反響を呼んだが、秋では、劇場の外にある社会の現実そのものを大胆に活用・引用するドキュメンタリー演劇を特集する。3回連続で紹介するミニ・プロトコルは今回いよいよ劇場を飛び出し、トラックを改造した移動型劇場で、私たちに港湾都市の物流と労働の現実を見せてくれるだろう。アメリカ人アーティスト、クリス・コンデックは、劇場と株式市場をリアルタイムに接続することで、観客を世界経済のリアルの中に投げ入れる。高山明率いる PortB は、劇場前に仮設の「個室ビデオ店」を出現させ、そこで日々繰り広げられる個と集団の体験そのものを演劇作品/ビデオインスタレーションとして発表する。一方、レバノンのラビア・ムルエとリナ・サーネーは、名作映画の物語構造を借用し現実と虚構の境界線を伸縮させることで、再びレバノンの現実を批判的にあぶり出すだろう。こうした一連の試みは、劇場の中で虚構を表象する行為としての演劇という枠組から確信犯的に逸脱することで、逆説的に演劇のもつ社会的可能性を観客とともに模索する試みとなるだろう。一方、松井周率いるサンプルは、その劇団名が示唆するように同時代の現実からサンプリングしながらも、それらを敢えて「物語」へと昇華させる。物語とドキュメンタリー、それぞれの対比から、「そこにあるリアル」のさらなる進化形を読み解いてほしい。

ダンスでは、ブラジルのストリートが生んだ才能、ブルーノ・ベルトラオを紹介する。HIP HOP の解体と再構築が生み出した未曾有の振付は、来るべきダンスの新境地を切り拓くものとして期待が高まる。また日本からは、切実な身体の極限に挑み続ける黒田育世の出世作にして代表作を、大胆にリクリエーションして上演。さらに春に引き続き天児牛大率いる山海塾の傑作レパトリーを上演し、舞踏のDNAを後世に受け継いでいく。ともすると自己言及のあまり内向化する今日のダンス状況に対し、ダンスという身体表現の本来的な衝動と可能性に真っ向から挑戦する作品群で、来るべきダンスの新展望を引き続き模索していきたい。

一方、フェスティバルという非日常をあらゆる参加者とゆるやかに共有する場として、F/T ステーションの機能とプログラムを拡充する。春に続き伊藤キムプロデュース「おやじカフェ」が開店し、新たなメンバーとレパトリーでお客様をもてなす他、快快(ファイファイ)による「池袋を明るくする」イベントが毎週末に開催されるなど、多彩な参加型プログラムがフェスティバルの2ヶ月間を盛り上げてくれるだろう。また春に引き続き演劇/大学 09 秋を開催、演劇教育の現場から生まれる作品と人材がぶつかり合い、演劇の未来を巡る対話の回路が開かれていくことを期待している。

私たちが生きる現実への応答として、私たちの同時代の真にリアルなもの、真に切実なものを巡る表現と共有の場としてのフェスティバル。その場はすべての人に開かれている。2010 年以降は、毎年一回のペースで秋シーズンに開催される予定である。演劇と社会、表現と同時代を巡る問いかけは続く。

相馬千秋

1975 年生まれ。1998 年早稲田大学第一文学部卒業後、フランスのリヨン第二大学院にてアートマネジメントおよび文化政策を専攻。現地のアートセンター等で経験を積んだ後、2002 年よりアートネットワーク・ジャパン勤務。東京国際芸術祭「中東シリーズ 04-07」をはじめ、国際共同製作による舞台作品や関連プロジェクトを多数企画・制作。06 年には横浜市との協働のもと新しい舞台芸術創造拠点「急な坂スタジオ」を設立、現在までディレクターを務める。07 年より早稲田大学演劇博物館グローバルCOE客員講師。東京国際芸術祭 2008 プログラム・ディレクターを経て、フェスティバル/トーキョーのプログラム・ディレクターに就任。

／フェスティバル/トーキョー プログラム

F/T 主催作品

- ① 松本雄吉(維新派) / ろじ式
- ② シュテファン・ケーギ、イェルク・カレンバウアー(リミニ・プロトコル) / Cargo Tokyo - Yokohama
- ③ 松井周(サンプル) / あの人の世界
- ④ ブルーノ・ベルトラオ(グルーポ・ヂ・フーア) / H3
- ⑤ 高山明(PortB) / 個室都市 東京
- ⑥ 黒田育世(BATIK) / 花は流れて時は固まる
- ⑦ 飴屋法水 / 4.48 サイコシス
- ⑧ クリス・コンデック / デッド・キャット・バウンス
- ⑨ ラビア・ムルエ、リナ・サーネー / フォト・ロマンス
- ⑩ 演劇/大学 09 秋
- ⑪ 天児牛大(山海塾) / 卵を立てることから—卵熱
- ⑫ タニノクロウ(庭劇団ペニノ) / 太陽と下着の見える町
- ⑬⑭⑮ ロメオ・カステルッチ(ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ) / 神曲 - 地獄篇 / 煉獄篇 / 天国篇
- ⑯ F/T ステーション
伊藤キム / おやじカフェ
快快(ファイファイ) / 快快の GORILLA

F/T 参加作品

- ⑰⑱ 前田司郎(五反田団) / 生きてるものはいないのか / 生きてるものか(仮題)
- ⑲ プラディット・プラサートーン(マカムポム・シアターグループ) / 赤鬼
- ⑳ ニコン・セタン(バンコク・シアター・ネットワーク) / 農業少女

F/T 提携事業

アジア舞台芸術祭 2009 東京

① 『ろじ式』 維新派

作・演出：松本雄吉



『呼吸機械』 © Fukunaga Kohji (Studio epoque)

想像力が、その場その時を埋め尽くす。維新派、6年ぶりの東京公演

犬島の精錬所跡を舞台にした『カンカラ』、琵琶湖上に大きな月と巨人を浮かべた『呼吸機械』など、その時、その場所にしかない風景を生み出す野外劇の雄・維新派。6年ぶりの東京公演の舞台は元中学校、にしすがも創造舎。校門をぐり、グラウンドの屋台村を抜け、劇場へ足を踏み入れれば、松本雄吉の想像力が私たちを「路地」の奥、私たちの原風景へと連れ去る。

公演日：10/23(金) - 11/3(火・祝)

会場：にしすがも創造舎

上演時間：100分

10/23(金)	10/24(土)	10/25(日)	10/26(月)	10/27(火)	10/28(水)	10/29(木)
19:00	14:00 18:00	14:00 18:00	19:00 ★	休演	19:00	19:00
10/30(金)	10/31(土)	11/1(日)	11/2(月)	11/3(火)		
19:00	14:00 18:00	14:00	19:00	14:00		

★終演後、ポストパフォーマンスあり 松本雄吉×タニノクロウ(庭劇団ペニノ主宰、劇作家、演出家)
にしすがも創造舎 校庭に屋台村「ろじきのろじ」が開演。開演1時間前から終演1時間後まで。

2009年9月5日(土)より前売開始

料金：指定席 一般 4,500円 / 学生 3,000円、高校生以下 1,000円(要学生証提示)

お取扱い：F/T チケットセンター、F/T オンラインチケット、F/T ステーション、

電子チケットぴあ【Pコード：397-078】、イープラス

※F/T回数券(3演目/5演目/10演目)、ペアチケットあり

/ アーティスト・プロフィール

松本雄吉 Yukichi Matsumoto

演出家



1946年熊本県生まれ。維新派主宰。

大阪教育大学で美術を専攻。70年日本維新派を経て維新派を結成。74年以降のすべての作品で脚本・演出を手がける。91年、東京・汐留コンテナヤードでの巨大野外公演『少年街』より、独自のスタイル「チャンチャン☆オペラ」を確立。野外にこだわり、観客とともに旅をする「漂流」シリーズを企画。奈良・室生、岡山の離島・犬島などで公演を行う。00年オーストラリア・アデレードフェスティバル、01年ヨーロッパツアー、05年南米ツアー、09年オセアニアツアーなど海外からの招聘も多数。

維新派 Ishinha

維新派は1970年に大阪で結成されて以来、主宰の松本雄吉を軸として常に〈演劇〉という枠では語りきれない活動を続けてきた。

野外に自らの手で建築する劇場、映画のセットのようなリアルなものから抽象的な空間まで造り込む圧倒的な美術、チャンチャン☆オペラと名付けた関西弁のイントネーションを生かした変拍子のリズムを駆使した台詞、オリジナルの音楽というすべての要素をディレクションし、構成・演出をこなすのは松本雄吉。彼によって演劇の総合芸術性を体現する舞台は生み出される。

チャンチャン☆オペラの「チャンチャン」とは、維新派の活動拠点である大阪・天王寺のジャンジャン町に由来する。標準語を使わず大阪弁のイントネーションを生かし、5拍子、7拍子など変拍子を多用したリズムによって紡がれる台詞は、大阪弁オペラ、シティケチャと呼ばれるように、まさに現代が生んだ新しいオペラといえる。松本雄吉は大阪弁にこだわらず、紀州弁、琉球語など日本の各地の方言から、果てはロシア語、中国語、スペイン語なども取り込み、「維新派弁」と言うべき混成言語を作り上げる。

更地に巨大な架空の街をたちあげる現場には、さまざまなジャンルのアーティストが集い、上演時はカーニバルの異空間を作り上げる。野外性、架空性にこだわり、公演後は釘一本残さず立ち去るのも彼らの特色だ。

<受賞歴>

99年 『水街』大阪府舞台芸術賞

02年 『カンカラ』朝日舞台芸術賞

05年 『キートン』読売演劇大賞演出家部門優秀賞

08年 『呼吸機械』朝日舞台芸術賞アーティスト賞 平成20年度芸術選奨文部科学大臣賞

／② 『Cargo Tokyo-Yokohama』 リミニ・プロトコル

構成：シュテファン・ケーギ 【スイス】

演出：イェルク・カレンバウアー 【ドイツ】



© Anja Mayer

観客移動型演劇？ 今度のリミニは「トラック」だ！

『ムネモパーク』では鉄道模型マニア、『資本論』では革命家や研究者、旧東ドイツの住人……。人々の記憶や想いを採集し、鋭くユーモラスなパフォーマンスに変換するドキュメンタリー演劇の新風、リミニ・プロトコル。今回のテーマは「物流」。トラックの荷台を客席に、荷物目線で東京を出発。初めての場所、働く人々の声からいつもとは違う都市の姿が見える。

上演時間：約 120 分

日本語上演

※詳細は決定次第、HP等にて発表。

/ アーティスト・プロフィール

シュテファン・ケーギ（構成） Stefan Kaegi



1972 年スイス生まれ。チューリッヒの美術大学でビジュアル・アーツを学んだ後、ドイツのギーゼン大学で演劇を学ぶ。00 年、ヘルガルド・ハウグ、ダニエル・ヴェツェルの二人と共にアートプロジェクト・ユニット、リミニ・プロトコル(Rimini Protokoll)を結成。02 年には、ハウグ、ヴェツェルと共に『Deutschland 2』を発表。朝9時から真夜中まで終日ベルリンで行われている国会の様子を約 500km 離れたボンで公募で集まった一般市民により同時中継するというプロジェクトは、ドイツで大きな話題となった。06 年にはフランスのアヴィニオン演劇祭で、『ムネモパーク』と『Cargo Sofia-Avignon』の2作品を上演。両作品とも大きな反響を呼び、各フランスの各メディアで絶賛された。

イェルク・カレンバウアー（演出） Jörg Karrenbauer



ベルリンで演劇と比較文学を学んだ後、劇作家・演出家ルネ・ポレシュと活動を共にする。リミニ・プロトコルの作品には『deadline』に映像として参加したのを皮切りに、『Cargo Sofia-X』の製作に携わり、2 年間でヨーロッパ・中東 29 都市における上演を実現させた。また、これまでにハンブルクのドイツ劇場におけるコンサートや演劇祭の企画・構成、自身の作品の劇作・演出など、現在ベルリンを拠点に多彩な活動を行っている。

リミニ・プロトコル Rimini Protokoll

シュテファン・ケーギ(Stefan Kaegi)、ヘルガルド・ハウグ(Helgard Haug)、ダニエル・ヴェツェル(Daniel Wetzel)の 3 人によるアートプロジェクト・ユニット。2000 年、フランクフルトで結成された。公共空間におけるパフォーマンスやドキュメンタリー演劇の手法を用いた型破りなプロジェクトの数々で世界の注目を集めている。出演者には、プロの俳優ではなく作品テーマに則した特別な経験や知識を持つ一般の人々を起用し、「ある現実をそのまま舞台上にあげる」という手法を用い、ヨーロッパで爆発的な人気を誇っている。04 年以降はベルリンのヘッベル劇場に拠点を置き、それぞれが個人のプロジェクトを発表する一方で、メンバーの 2 人、もしくは 3 人のプロジェクトも多く発表している。日本では、これまでに東京国際芸術祭 2008(08 年 3 月)において『ムネモパーク』、フェスティバル/トーキョー 2009 春(09 年 2 月～3 月)において『カール・マルクス: 資本論、第一巻』を上演し、好評を博した。

③ 『あの人の世界』 サンプル

作・演出：松井 周



『カロリーの消費』©青木司

それでも「物語」を信じて。気鋭の劇作家が切り取る現代の肖像

予定調和の「物語」を信じるのが難しい現代。劇作・演出家、松井周は、そこに生きる人々を見つめ、その病理を活写しながらなお、われわれが共有可能な物語を探す。F/T09 春の『火の顔』では日本人の身体・言語感覚を海外戯曲の中に浮かび上がらせた松井が、人と人、人と物、空間と物など、さまざまなものの中に生まれる「磁場＝物語」を見つめる意欲作。

公演日：11/6(金) - 15(日)

会場：東京芸術劇場小ホール1

上演時間：100分(予定)

11/6(金)	11/7(土)	11/8(日)	11/9(月)	11/10(火)	11/11(水)	11/12(木)
19:30★	19:30	15:00 19:30★	休演	19:30	19:30	14:00★ 19:30
11/13(金)	11/14(土)	11/15(日)	※英語字幕つき上演			
19:30	14:00 ※ 19:30 ※	14:00 ※				

★終演後ポスト・パフォーマンストークあり

11/6(金) 松井周 × 松本雄吉(維新派主宰、演出家)

11/8(日) 松井周 × 岩井秀人(ハイバイ主宰、劇作家、演出家)

11/12(木) 松井周 × タニノクロウ(庭劇団ペニノ主宰、劇作家、演出家)

2009年9月5日(土)より前売開始!

料金：自由席 一般 3,500円 / 学生 3,000円、高校生以下 1,000円(要学生証提示)

お取り扱い：F/T チケットセンター、F/T オンラインチケット、F/T ステーション、

電子チケットぴあ【Pコード：397-079】、イープラス

※F/T回数券(3演目/5演目/10演目)、ペアチケットあり

/ アーティスト・プロフィール

松井 周 Shu Matsui 劇作家・演出家・俳優



©青木司

1972年東京生まれ。96年、俳優として劇団青年団に入団。俳優活動を続けながら戯曲を執筆し、日本劇作家協会新人戯曲賞の最終候補作に二度選ばれる。現在は青年団での俳優活動に加えて、自作を演出する劇団サンプルを立ち上げ、劇作・演出活動にも意欲的に取り組んでいる。08年『家族の肖像』は岸田國士戯曲賞最終候補に選ばれた。「フェスティバル/トーキョー09春」では、マリウス・フォン・マイエンブルグ作『火の顔』を演出。海外戯曲を現代日本の皮膚感覚と接続させたその手腕が高く評価された。

10年2・3月には北九州芸術劇場プロデュースによる新作公演を控える。09年よりセゾン文化財団より助成(ジュニアフェロー)を受ける。

サンプル Sample

劇作家・演出家・俳優の松井周が作・演出する劇団。

2004年に処女作『通過』が未上演にして第9回日本劇作家協会新人戯曲賞入賞。続く2作目『ワールドプレミア』で第11回日本劇作家協会新人戯曲賞入賞。『地下室』『シフト』と話題作を続けて発表し、青年団リンクを経て、5作目『カロリーの消費』で劇団名を「サンプル」とし、辻美奈子、古舘寛治、古屋隆太の3俳優とともに劇団として始動した。

その作品世界は、価値を反転させることと空間、身体、時間の可能性を探り続けることを特徴としている。疑似家族、徘徊、暴力、ユートピアなどをキーワードに、現代人の自己喪失のありさまを鋭く切り取る。代表作『カロリーの消費』には痴呆の始まった母親の介護を病院に委託している息子を中心に、権威を放棄しアブノーマルな性愛に没頭する医者、疑似親子関係に固執するフィリピン人介護士、自分探しのために町をさまよう若い女性などが登場。書割のような薄っぺらい世界の中をあたかも無目的に歩き続ける彼らの姿を通じ、人間の営みは「カロリーの消費」でしかないにもかかわらず、だからこそ価値があるという強烈な逆説を示した。

また、08年に岸田國士戯曲賞最終候補にノミネートされた『家族の肖像』は、<「転向」することを常態と認識しながらも、どこかで誰かと「転向」できない何かを共有したいと願っている者たちの、細い糸のつながりを表現する>という企画意図の通り、廃棄処分のコンビニ弁当がさまよう先の家々の、あまりにも孤立化し、乾いた現代的状況を表現した。

こうしたサンプルの表現は、演出・美術・照明・衣装の力が結集して作り上げる強烈なビジュアルに加え、ドラマトウルクと共に強化される作品の構成力によるところが大きい。戯曲を解体し、効果的な表現手法を探し、細部にわたって突き詰める共同作業は、圧倒的な世界観の完成を支えている。09年からは松井周がセゾン文化財団から助成を受け、益々の期待と注目を集めている。

④ 『H3』 グルーポ・ヂ・フーア

演出・振付:ブルーノ・ベルトラオ【ブラジル】



© Bruno Beltrão

哲学するヒップホップ。ダンス界の新星、ブラジルから遂に上陸

シンプルで静かな空間に躍動するダイナミックでエネルギッシュな身体。触れそうで触れない、ギリギリの距離を保ったムーヴメントの連続は「知覚」や「空間」への思索を感じさせる。ブラジルのストリートから登場した、哲学するヒップホップダンサー、ブルーノ・ベルトラオの最新作が東京に初登場。世界が注目するダンスの新機軸を目撃せよ。

公演日:11/7(土) - 11(水)

会場:にしすがも創造舎

上演時間:50分

11/7(土)	11/8(日)	11/9(月)	11/10(火)	11/11(水)
17:00	13:00 19:30	19:30	19:30	19:30

2009年9月5日(土)より前売開始!

料金:指定席 一般 4,000円 /学生 3,000円、高校生以下 1,000円(要学生証提示)

お取り扱い:F/T チケットセンター、F/T オンラインチケット、F/T ステーション、

電子チケットぴあ【Pコード:397-080】、イープラス

※F/T回数券(3演目/5演目/10演目)、ペアチケットあり

/ アーティスト・プロフィール

ブルーノ・ベルトラオ Bruno Beltrão 振付家、ダンサー



©TELMO KEIM

1979年ブラジル・ニテロイ生まれ。93年よりイスラエル人講師によるストリートダンスのレッスンを受けはじめ、ブラジルでは当時あまりメジャーではなかったこのダンススタイルに没頭することになる。

96年、ロドリゴ・ベルナルディ(Rodrigo Bernardi)と共にダンスカンパニー「グルーポ・ヂ・フーア(Grupo de Rua)」を設立。当初の2年間はストリートダンスのコンペティションやイベント、テレビ番組等への出演をメインに活動していたが、01年、コンテンポラリーダンスシー

ンにおける初めての作品となるデュエット作品『From Popping to Pop or vice-versa』をリオ・デ・ジャネイロのフェスティバルにて上演。この作品はパターン化された構成方法と技巧を追い求めるストリートダンスからより自由に作品を創作するためのファースト・ステップとなり、また、彼の振付家としてのターニングポイントとなった。この作品以降、ブルーノはヒップホップのテクニックを用いながら柔軟で創意に富む作品を創作する方法を探求し続けることになる。

02年、ランコントル・コレオグラフィック・アンテルナショナル・ドウ・セーヌ・サンドニで紹介されたことをきっかけに、カンパニーは国際的なキャリアを築き始める。03年にはフランス人振付家ジェローム・ベル(Jérôme Bel)に招かれ、ベルギーの国際的ダンスフェスティバル、クラブストウック・フェスティバル(Klapstuk Festival)で作品を上演。また、同年ユトレヒト(オランダ)、アジャクシオ(フランス)、ベルリン、ハノーバー(ドイツ)、横浜などでも作品を上演する。

現在は振付家としての創作活動の傍ら、社会活動にも積極的に参加し、ストリートダンスの普及と啓蒙活動も様々な領域で行っている。

／ ⑤ 『個室都市 東京』 Port B

構成・演出：高山 明



©Masahiro Hasunuma

池袋西口公園に個室のビデオインスタレーションが出現。宿泊も可能？

サンシャイン 60 の周辺をツアーするパフォーマンスなど、既存の演劇の枠組を更新する試みで注目を集める高山明。今作では、池袋西口公園に 24 時間オープン個室のビデオインスタレーションを出現させる。来場者の参加によって日々進化する作品やイベントを通じて、都市のリアルを体感する「場」が誕生するに違いない。

公演日：11/15(日)正午 - 22(日)正午

池袋西口公園

24 時間オープン

料金：個室 DVD 鑑賞/1 時間 500 円～

オプション・ツアー/お一人様 1,000 円(受付：正午～22 時)

ほか各種料金プランあり

※F/T回数券対象外

アーティスト・プロフィール

高山 明 Akira Takayama 演出家



1969 年生まれ。2002 年にユニット Port B (ポルト・ビー) を結成。演劇を専門としない表現者たちとの共同作業によって、既存の演劇の枠組を超えた前衛的な作品を次々と発表。創作の拠点「にしすがも創造舎」がある池袋・巣鴨一体では、サンシャイン 60 が象徴する日本戦後史を巡る 3 部作として、舞台作品『雲。家。』、ツアーパフォーマンス『サンシャイン 62』、演劇的インスタレーション『荒地』を発表し、演劇界のみならず現代アートの文脈からも大きな注目を集めた。F/T09 春では、これまでの活動の集大成として、『雲。家。』『サンシャイン 63』の 2 作品を再創造・同時再演し話題を呼んだ。現実の都市や社会に存在する記憶や風景、メディアなどを引用し再構成しながら作品化する手法は、「来るべきもの」としての現代演劇の可能性を提示する試みとして、国内はもとより海外のフェスティバルや美術展でも大きな注目と期待を集めている。

Port B (ポルト・ビー)

02 年東京にて結成。高山明がドイツで培った演出メソッドを叩き台に、演劇以外の活動に携わるアーティストや職人を中心に演劇的実験を繰り返す。活動は多岐にわたる。「演劇(的)テキスト」に取り組んだ舞台には、ブレヒトの第一詩集『家庭用説教集』を素材とした『シアター X・ブレヒト演劇祭における 10 月 1 日/2 日の約 1 時間 20 分』(03 年)、H. ミュラー『ホラティ人』(05 年)、E. シュレーフ『ニーチェ』(06 年)、E. イェリネク『雲。家。』(07 年)がある。

他方、高島平をフィールドワークし団地で暮らす人達を舞台に招き入れた『Museum: Zero Hour ～ J.L. ボルヘスと都市の記憶～』(04 年)や、隅田川をフィールドワークした成果と謡曲『隅田川』をクロスさせた『Re:Re:Re:place ～隅田川と古隅田川の行方(不明)～』(05 年)はドキュメンタリー性の強い舞台である。

近年は更に、実際の都市をインスタレーション化する“ツアー・パフォーマンス”なるものを企画。「おばあちゃん原宿」巣鴨地蔵通りを舞台にした『一方通行路』(06 年)、東京観光の代名詞はとバスを使った『東京ノオリンピック』(07 年)、池袋サンシャイン 60 の周囲を 5 人一組の参加者が巡った『サンシャイン 62』(08 年)、山口情報芸術センターでのプロジェクト『山口市営. P. 』(08 年)は、各種メディアに取り上げられるなど好評を博した。

また、“演劇的インスタレーション”と称される作品の系譜に、旧豊島区立中央図書館における『荒地』(08 年)、旧ソウル駅駅舎を使った『東西南北』(08 年)、茨城県取手市井野団地での『団地大図鑑』(08 年)等があり、これらは現代美術の領域においても注目を集めた。

いずれの活動においても「演劇とは何か」という問いが根底にあり、「きたるべきもの」としての現代演劇を追求している。

／ ⑥ 『花は流れて時は固まる』 BATIK

構成・演出・振付：黒田育世



© Youichi Tsukada

身体で探す、むきだしの“今”。04年朝日舞台芸術賞受賞作をリ・クリエーション

極限まで酷使され、研ぎ澄まされた身体感覚を武器に、ダンス界に衝撃を与え続ける振付家・ダンサー、黒田育世。衝動に突き動かされるような圧倒的な強さで観客に迫る黒田の代表作が、大幅なリ・クリエーションを経て遂に再演される。追い求めるのは「時間が止まる感覚」。ダンサーたちの切実な身体にむきだしの「今」が宿る。

公演日：11/15(日) - 20(金)

会場：にしすがも創造舎

上演時間：未定

11/15(日)	11/16(月)	11/17(火)	11/18(水)	11/19(木)	11/20(金)
17:00	19:30	19:30★	休演	19:30	19:30

★終演後ポスト・パフォーマンストークあり

黒田育世 × 笠井 勲 (舞踏家)

2009年9月5日(土)より前売開始!

料金：自由席 一般 4,000円 / 学生 3,000円、高校生以下 1,000円(要学生証提示)

お取り扱い：F/T チケットセンター、F/T オンラインチケット、F/T ステーション、
電子チケットぴあ【Pコード：397-081】、イープラス

※F/T回数券(3演目/5演目/10演目)、ペアチケットあり

アーティスト・プロフィール

黒田育世 Ikuyo Kuroda BATIK 主宰、振付家、ダンサー



6歳よりクラシックバレエをはじめ、「谷桃子バレエ団」に所属しながら1997年渡英、ラバンセンターにてコンテンポラリーダンスを学ぶ。2000年より「伊藤キム+輝く未来」で活動。02年「BATIK」を設立。同年、ドウ・セーヌ・サンドニ(旧バニョレ)国際振付賞ヨコハマプラットフォームにて《ナショナル協議員賞》を受賞。03年トヨタコレオグラフィアワードにて《次代を担う振付家賞》《オーディエンス賞》を受賞。04年『花は流れて時は固まる』『SHOKU』を発表。同年イギリス・ダンスアンブレラフェスティバルに招聘される。05年《朝日舞台芸術賞》、《キリンダンスサポート》をダブル受賞。06年《舞踊批評家協会賞》受賞。近年は、金森穰率いるNoizm05への振付提供や、06年ジョセフ・ナジ振付『遊*ASOBU』への出演など、日々、その活動を着実に広げている。

BATIK(バティック)

黒田育世振付による作品創造を中心とし、02年4月設立。02年2月の「ドウ・セーヌ・サンドニ(旧バニョレ)国際振付賞」での《ナショナル協議員賞》受賞をきっかけにカンパニーとしての活動を本格化した。これまでに03年、静岡県舞台芸術センター主催「SPACダンス・フェスティバル2003」にて《優秀賞》を受賞。同年7月、「TOYOTACHOREOGRAPHY AWARD 2003」にて「次代を担う振付家賞」と「オーディエンス賞」を受賞。05年1月第4回朝日舞台芸術賞、キリンダンスサポートを受賞。敢えてバレエのテクニックを基礎にもったカンパニーとして、多様化するコンテンポラリーダンスの表現のなかで「踊ること」にこだわった活動をしている。

<受賞歴>

- 02年 「ランコントル・コレオグラフィック・アンテルナショナル・ドウ・セーヌ・サンドニ(旧バニョレ)国際振付賞」ヨコハマプラットフォーム」に出場、《ナショナル協議員賞》受賞
上演作品:『SIDE B』
- 03年 「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2003」にて、《次代を担う振付家賞》(グランプリ)と《オーディエンス賞》を受賞 『SIDE B』を上演、「SPACダンス・フェスティバル2003」(静岡県舞台芸術センター主催)に出場 《優秀賞》受賞 『SIDE B』を上演
- 04年 第4回 朝日舞台芸術賞、《舞台芸術賞》、《キリンダンスサポート》
『花は流れて時は固まる』『SHOKU -full version-』の演出・振付・出演に対して
- 06年 2005年度 舞踊批評家協会賞 受賞

⑦ 『4.48 サイコシス』

作：サラ・ケイン【イギリス】

演出：飴屋法水



衝撃再び。言葉、身体、震える空気。その果てに在るもの

ト書や物語が消失し、病める精神の内的心象が断片的に綴られたサラ・ケインの遺作に、F/T09春『転校生』で衝撃を与えた飴屋法水が対峙。4時48分が無限に反復するかのような一瞬にして永遠の「生」と「死」。演劇、美術、音響、動物店経営など、多様なフィールドを越境して「生命」を凝視し続ける飴屋は、ケインの言葉にいかなる声と体を与えるのか。

公演日：11/16(月) - 23(月・祝)

会場：あうるすぽっと

上演時間：未定

11/16(月)	11/17(火)	11/18(水)	11/19(木)	11/20(金)
19:00	19:00	19:00	19:00	19:00
11/21(土)	11/22(日)	11/23(月・祝)		
19:00	19:00	14:00		

2009年9月5日(土)より前売開始！

料金：自由席 一般 4,500円 / 学生 3,000円、高校生以下 1,000円(要学生証提示)

お取扱い：F/T チケットセンター、F/T オンラインチケット、F/T ステーション、

電子チケットぴあ【Pコード：397-082】、イープラス

※F/T回数券(3演目/5演目/10演目)、ペアチケットあり

アーティスト・プロフィール

飴屋法水 Norimizu Ameya 演出家・美術家



©久家靖秀

1961 年生まれ。78 年、アングラ演劇の中心的存在だった唐十郎主宰の「状況劇場」に参加し、音響を担当。84 年「東京グランギニョル」を結成し、カルト的な人気を博す。87 年「M.M.M.」を立ち上げ、メカニク的な装置と肉体の融合による『スキン/SKIN』シリーズでサイバーパンク的な舞台表現を固める。

90 年代は舞台から美術活動に移行しながらも、人間の身体に一貫してこだわり続け、輸血、人工授精、感染症、品質改良、化学食品、性差別などをテーマとして扱い、「TECHNOCRAT」という名のコラボレーション・ユニットの一員として作品を制作。95 年、ヴェネツィア・ビエンナーレに「パブリック ザーメン」で参加するが、その後美術活動を停止。同年、東京・東中野に「動物堂」を開店し、様々な生物の飼育と販売を開始した。97 年に出版された『キミは動物(ケダモノ)と暮らせるか?』(後の文庫化では『キミは珍獣(ケダモノ)と暮らせるか?』とタイトル変更)は、様々な珍獣の特徴や飼育に関する情報を提供しながらも、それだけにはとどまらず、飴屋が数々の動物と生活を共にする中で見えてきた人間や動物についての数々の考察を含んでいる。

2005 年には、それまで休止していた美術活動を、「バングント」展で再開。「消失」をテーマとしたこの展覧会のメインとなる作品は、飴屋自身が閉じ込められた 1.8 メートル四方の白い箱。最小限の通気のみが許された箱の中の間にこもる飴屋と、外部の人間のコミュニケーション手段はノックのみ。24 日にわたる会期を、飴屋は必要最低限の水や流動食を携え、箱の中で過ごし、他者には見えなくなった自らの存在を作品の本質的構成要素とした。

2007 年、静岡県舞台芸術センター主催「SPAC 秋のシーズン 2007」では、演出家として演劇活動を再開。オーディションで選ばれた静岡県内の現役女子高校生 18 人を起用した『転校生』(平田オリザ作)で好評を博した。同作は 09 年 3 月、静岡、ならびにフェスティバル/トーキョー09 春にて再演。

今年 7 月から 8 月にかけて、東京・原宿のリトルモア地下にて上演された『3 人いる!』(多田淳之介作)では「12 日間、毎日、何かが違っている」というコンセプトの下、飴屋が構成・演出を手がけた。合わせて 36 人の出演者による、日替わり 12 バージョン上演は、注目を集め、多くのリピーターを呼んだ。

／ ⑧ 『デッド・キャット・バウンス』

演出：クリス・コンデック【アメリカ/ドイツ】



©Klaus Weddig

売りか？ 買いか？ リアルタイムの株式市場にダイブする

クリス・コンデックが誘うのは、観客が支払ったチケット代を原資にした、90 分間の投資ゲーム・ショーの世界。ロンドン証券取引所で取引される株式をリアルタイムで売り買い。その過程では、観客も意思決定に加わる。儲けるには、どうすればいい？ いつ降りれば、損をしないで済む？ 欲と恐怖に支配されながら学ぶ金融資本主義と、そのシステム。

公演日：11/23(月・祝) - 27(金)

会場：にしすがも創造舎

上演時間：90 分

英語上演・日本語通訳あり

11/23(月・祝)	11/24(火)	11/25(水)	11/26(木)	11/27(金)
19:00	19:00	19:00★	19:00	19:00

★終演後ポスト・パフォーマンストークあり

11/25(火) 演出家と出演者によるトーク

2009 年 9 月 5 日(土)より前売り開始！

料金：自由席 一般 4,500 円 / 学生 3,000 円、高校生以下 1,000 円(要学生証提示)

お取扱い：F/T チケットセンター、F/T オンラインチケット、F/T ステーション、

電子チケットぴあ【Pコード：397-083】、イープラス

※F/T回数券(3 演目/5 演目/10 演目)、ペアチケットあり

アーティスト・プロフィール

クリス・コンデック Chris Kondak 映像作家・演出家



1962年アメリカ・ボストン生まれ。

20年以上演劇やパフォーマンスの分野でビデオ・アーティストとして活躍。90年以降ニューヨークのウースター・グループへ映像作家として参加。95年、ローリー・アンダーソンとのコラボレーションでマルチ・メディア・コンサート『The Nerve Bible』およびオペラ『Songs and Stories from Moby Dick』の映像を担当。演出家のロバート・ウイルソンや作曲家のマイカル・ナイマンのプロダクションにも映像作家として関わっている。

99年から拠点をドイツ・ベルリンに移し、メグ・スチュワート振付作品『Alibi』、『Visitor's Only』、『Replacement』に映像作家として関わる。08年3月、ミュンヘン・カマーシュピーレで上演となったシュテファン・ブッハー演出の『テンペスト』（シェイクスピア）では、ビデオ・デザイナーとしてOpus賞を受賞。

これまでに数多くのオペラ演出に映像作家として参加。特にヨッシ・ヴィラー演出の『フィガロの結婚』（アムステルダム国立歌劇場）及び『ルサルカ』（ザルツブルク音楽祭）、ファルク・リヒター演出の『魔弾』（ザルツブルク音楽祭）での映像は高い評価を得た。07年と08年、演出家のセバスティアン・バウムガルテンとのコラボレーションとしてドレスデン・ゼンパー・オーパーでブリテン作曲の『ピーター・グライムズ』を発表、またベルリンのフォルクスビューネで『トスカ』の映像を担当した。

04年以降は、自ら構成・演出を手がけたパフォーマンスも発表している。初めての演出作品としてベルリンで上演した『デッド・キャット・バウンス』は05年第2ドイツテレビ（ZDF）演劇チャンネル賞を受賞した。プレヒトの『リンドバークたちの飛行』に基づいた第2回目の演出作品『Hier ist der Apparat』は06年、ブリュッセルクンステンフェスティヴァルデザールのオープニング作品となった。08年は金融危機を扱う作品『Loan Shark』をベルリンのヘッベルHAU劇場で発表し、この作品は同年ロッテルダムでも上演された。

⑨ 『フォト・ロマンス』

構成・演出：ラビア・ムルエ、リナ・サーネー【レバノン】



『これがぜんぶエイプリルフールだったなら、とナンシーは』
©Kohei Matsushima

「歴史＝物語」が交錯する、ベイルートの「特別な一日」

レバノンの鬼才ラビア・ムルエとリナ・サーネーが、09年アヴィニオン演劇祭最新作で再来日。政治的混迷を続けるレバノンから芸術やメディアにおける「真実」と「虚構」を問い続けてきた二人は今回、イタリア名作映画を06年空爆直後のベイルートに置き換える。大規模デモの日、元左翼主義のジャーナリストと家庭や宗教上の悩みに溺れる主婦の人生が交錯する――。

公演日：11/26(木) - 29(日)

会場：東京芸術劇場小ホール1

上演時間：80分

上演言語：アラビア語(日本語字幕付き)

11/26(木)	11/27(金)	11/28(土)	11/29(日)
19:00	19:00 ★	14:00 19:00	14:00

★終演後ポスト・パフォーマンストークあり

11/27(金) 演出家によるトーク

2009年9月5日(土)より前売開始!

料金：自由席 一般 4,500円 / 学生 3,000円、高校生以下 1,000円(要学生証提示)

お取扱い：F/T チケットセンター、F/T オンラインチケット、F/T ステーション、

電子チケットぴあ【Pコード：397-084】、イープラス

※F/T回数券(3演目/5演目/10演目)、ペアチケットあり

アーティスト・プロフィール



ラビア・ムルエ Rabih Mroué
劇作家・演出家・俳優

1967年ベイルート生まれ。現在世界の演劇界、アート界で最も高い注目を集める気鋭のアーティストの一人。ベイルートのレバノン大学で演劇学を専攻し、90年より劇作家・演出家・俳優としてのキャリアをスタート。やがて内戦の終わったレバノン社会の傷と矛盾を執拗に表象し、解体するパフォーマンスや映像作品をつくりはじめる。

代表作『スリー・ポスター』(01年)、『BIOKHRAPHIAービオハラフィア』(02年)、『消された官僚を探して』(04年)、『表象を恐れるのは誰?』(05年)は、ヨーロッパの主要な劇場やフェスティバルのみならず、中東、北米、アジアの各地でも上演され、世界の演劇フェスティバルや劇場の常連としての地位を築いてきた。日本でも『BIOKHRAPHIAービオハラフィア』が04年東京国際芸術祭で、『消えた官僚を探して』が08年SPAC春の芸術祭に招聘されている。また、前作『これがぜんぶエイプリルフールだったなら、とナンシーは』(07年)は、東京国際芸術祭との共同製作により東京にて世界初演され、その後、世界中で大きな反響を巻き起こした。

ラビア・ムルエの作り出す作品は、メディアや共同体が語る真実と虚構の間のあいまいな境界に揺さぶりをかける。個人のプライベートから、演劇やアートの意味や役割、そして宗派や政治派閥によって定義されるレバノン社会の諸問題まで、彼は自身が集めるドキュメント(記録物)、写真、オブジェなどを通して、「真実」を探し求めるが、その行為によって逆説的に明らかになってくるのは、メディアや歴史が作り出した多くの虚構に過ぎない。アーティストは個と社会の「歴史＝物語」を交錯させながら、その影に潜む虚構の構造を暴いていく。

一方、俳優としてのムルエの活躍も目覚ましい。2008年には、『私は見たい』(監督:ジョアンナ・ハジトゥーマ&カリル・ジョレイジュ)でカトリーヌ・ドヌーヴと共演。ムルエが、ドヌーヴをレバノン南部にある祖母の家に連れていくという設定で、長年の内戦やイスラエル軍による攻撃で荒廃したレバノンの現実が映し出される。本作品は2008年カンヌ映画祭「ある視点」部門にもノミネートされ、日本でも東京フィルメックスのコンペティション部門で上映され、大きな話題を呼んだ。

リナ・サーネー Lina Saneh

演出家・俳優

1966年ベイルート生まれ。『椅子』(96年)、『Ovriら-オブリラ』(97年)、『戸籍の抜粋』(00年)、『BIOKHRAPHIAービオハラフィア』(02年)などの代表作では、演出のみならずサーネー自身も出演している。

初期の作品群では、中東の政治社会的紛争に影響を受けた身体と、そこに刻み込まれた痕跡を描いている。現在は体の理想化が進んでいる一方、この仮想世界における舞台芸術の持つ役割についてを出発点として、我々の市民の権利や公共の立場を疑問にする、マルチメディア・アートや映像、新しいシュプレヒコールを呼び起こせる力がある、様々な手法を借用した作品を創造している。

代表作の『アッペンディス』(07年)は内臓を一個一個取り外して、擬似的に火葬するという作品である。これは「リナ・サーネーボディ・パーツ・スタジオ」というプロジェクトの一貫で、宗教的制限により火葬を禁じ法律のあり方を問。人体に署名して、作品化したアーティストピエロ・マンゾーニにインスピレーションを得たサーネーは国内外のさまざまなアーティストに自分の体の部分部分に署名してもらい、死後には体を解体し、世界中にいるオーナーに分けるという長年のアート・プロジェクトも行っている。サーネーにとって、これはレバノンの抑圧的体制からの脱出方法である。

⑩ 『演劇/大学 09 秋』



桜美林大学<OPAP>vol.31『朝まだき』©福井理文



木ノ下歌舞伎『桂川連理柵』©竹崎博人



近畿大学『少女仮面』©富田了平



多摩美術大学

今どきの演劇は大学から生まれる

近年相次いで誕生し、成果を挙げつつある大学の舞台芸術系学部・学科。演技、演出からプロデュースまで、実際の現場を知る教員やアーティストと若い学生とが向き合う創造の場で、今、何が生み出されようとしているのか。各大学の個性を生かした作品群、若手クリエイターとして活躍中のOB/OGと学生によるトークセッションから演劇の未来が見えてくる。

公演日：12/1(火) - 6(日)

会場：東京芸術劇場小ホール1、シアターグリーン BIG TREE THEATER

	12/1(火)	12/2(水)	12/3(木)	12/4(金)	12/5(土)	12/6(日)
東京芸術劇場 小ホール1		近畿 19:00	近畿 14:00		桜美林 18:00	桜美林 16:00
シアターグリーン	多摩美 19:00	多摩美 14:00			京都造形 15:00	京都造形 13:00

2009年9月5日(土)より前売開始!

料金：自由席 一般・学生共通 1 演目 1,000 円

お取扱い：F/T チケットセンター、F/T オンラインチケット、F/T ステーション

※F/T回数券(3 演目/5 演目/10 演目)

<上演プログラム>

- ・ 桜美林大学
『カサブタ』 振付・演出:木佐貫邦子(同大学准教授)
- ・ 京都造形芸術大学
『木ノ下歌舞伎—伊達娘恋緋鹿子』 作:菅専助ほか 演出:木ノ下裕一(同大学大学院芸術研究科修士2年)
- ・ 近畿大学
『腰巻お仙—義理人情いろはにほへと篇』 作・演出:唐十郎(同大学特任教授)
- ・ 多摩美術大学
『ファスナー』 作・演出:伊藤衆人(多摩美術大学映像演劇学科2年)/ 出演:映像演劇学科在校生、
『氷山のイッかく』 作・演出:新見聡一(多摩美術大学映像演劇学科3年)/ 出演:映像演劇学科在校生、
『健康少年』 作・演出:大石貴也(多摩美術大学映像演劇学科2年)/ 出演:映像演劇学科在校生

<演劇/大学 09 秋 フォーラム>

『演劇/大学の Before/After』

12/6(Sun)19:00 ~ 21:00 F/T ステーション

超新世代クリエイターが考える「今」そして「未来」

作品上演を行う4つの大学の学生、OB/OGを中心に、「大学」という場を通じた演劇創造の現在と未来を探るフォーラム。第一部では学生同士が事前に取材した各大学の稽古場の様子を紹介、上演作品が生み出された舞台裏を明らかにしながら、学生自身が大学と演劇の「今」を語る。続く第二部では、参加大学の卒業生を中心とした若手クリエイター達が登場。演出家として俳優として、あるいはダンサーとして、「今、この場、この時代に」舞台芸術と関わり続ける彼らが、学生と共に「未来」を展望する。

出演:参加大学学生、OB・OGの若手演劇人たち

司会・コーディネーター:長島確(ドラマトウルク)

入場無料・要予約(HPから予約)

／ ⑪ 『卵を立てることから一卵熱』 山海塾

演出・振付・デザイン:天児牛大



©Masafumi SAKAMOTO

生と死、生命の連鎖を高い美意識の下に描いた傑作

パリを拠点に活動を続ける舞踏カンパニー・山海塾が、卵をモチーフに受胎から誕生、死、再生へと至る生命の連鎖を描いた傑作を8年ぶりに東京で上演する。舞台上のプールの水面には柔らかな光が差し、幻想的な空間を創り上げる。奥には絶え間なく流れる水と砂。永遠の時間の中で身体と宇宙との対話が始まる。

公演日:12/4(金) - 6(日)

会場:東京芸術劇場中ホール

上演時間:85分

12/4(金)	12/5(土)	12/6(日)
19:00	14:00	14:00

2009年9月5日(土)より前売開始!

料金:指定席 一般 (S)4,500円 (A)3,500円

学生 3,000円、高校生以下 1,000円(要学生証提示)

お取扱い:F/T チケットセンター、F/T オンラインチケット、F/T ステーション、

電子チケットぴあ【Pコード:397-085】、イープラス

※ F/T回数券(3演目/5演目/10演目)、ペアチケットあり

アーティスト・プロフィール

天児牛大 Ushio Amagatsu 山海塾主宰・振付家・演出家・舞踏家



©Yuji Arisugawa

1949年神奈川県生まれ。75年に山海塾を創設。『アマガツ頌』(77)、『金柑少年』(78)、『処理場』(79)を発表後、80年に初めての世界ツアーを行う。81年より、フランスおよびパリ市立劇場を創作の拠点とし、同年アヴィニオン・フェスティバルで『漠紀』を発表。82年以降、およそ2年に1度のペースで、パリ市立劇場との共同プロデュースにより、12作品を発表している。来春、新作をパリ市立劇場にて発表する。

山海塾以外でも活躍する天児は、88年に米国ジェイコブス・ピロー財団の招待でフィリップ・グラス作曲による『風姿』を発表。89年には、東京のスパイラルホール(青山)の芸術監督に就任し、『アポカリプス』(89)および米国人ダンサーを使った『フィフス-V』(90)の構成・演出・振付をてがけた。92年、バニョレ国際振付コンクールの審査委員長を務め、同年、フランス政府から芸術文化功労章(シュバリエ章)を受章。オペラの演出も手がけ、97年にはペーター・エトヴェシュ指揮によるバルトークのオペラ『青ひげ公の城』を東京国際フォーラムで上演。98年には、同氏の作曲による新作オペラ『三人姉妹』(原作:チェーホフ)をフランス・リヨン国立歌劇場にて演出(世界初演)、フランス批評家協会最優秀賞を受賞した。なお、『三人姉妹』は01年11月にパリのシャトレ座にて、02年3月にブリュッセルの王立ラ・モネ劇場、4月にリヨン国立歌劇場、5月に、オーストリアのウィーン・フェストボーヘンにて再演された。また08年3月、10年ぶりに、ペーター・エトヴェシュ作曲による新作オペラの演出を手がけた。“Lady SARASHINA”(原作:菅原孝標女「更級日記」)を、リヨン国立歌劇場にて世界初演。本作オペラは、再び、フランス批評家協会最優秀賞を受賞した。09年2月にオペラ・コミックにて再演。

山海塾 Sankai Juku

1975年に主宰・天児牛大によって設立された舞踏カンパニー。80年より海外公演を開始し、82年からは、世界のコンテンポラリーダンスの最高峰であるパリ市立劇場(Théâtre de la Ville, Paris)を創作活動の本拠地として、およそ2年に1度のペースで新作を発表している。

日本で生まれたカンパニーでありながら、82年以降の作品は、すべてパリ市立劇場との共同プロデュース。厳しく作品の質を問う劇場が、25年以上にも渡り共同プロデュース形式で創作を支援し続けているカンパニーは、世界でもわずかしかな存在しない。

山海塾の作品は、演出・振付のほか、空間や衣裳のデザインも総合的に天児牛大が創作している。天児は一貫して舞踏を「重力との対話」として捉えながら、「誕生」「死」といった普遍的な人間の内的本質に迫る。身体言語に基づく独自のアートフォーム(表現形態)を創りあげたこと、作品の普遍性、そして何よりもその表現の芸術的強度によって、世界各国できわめて高い評価を得てきた。

<上記以外の受賞歴>

- 95年 外務大臣表彰(山海塾)
- 01年 第33回舞踊批評家協会賞(山海塾)
- 02年 第26回ローレンス・オリヴィエ賞の「最優秀新作ダンス作品賞」(作品:『ひびき』)
- 04年 平成15年度芸術選奨文部科学大臣賞[舞踊部門](天児牛大)
- 07年 第6回朝日舞台芸術賞グランプリ(作品:『とき』)およびキリンダンスサポート(山海塾)

／ ⑫ 『太陽と下着の見える町』 庭劇団ペニノ

作・演出：タニノクロウ



『アンダーグラウンド』©田中亜紀

劇場は町に、観客は訪問者に。五感で体験する“イメージの演劇”

ジャズの生演奏と混乱する手術シーンを並行させ、恐怖と笑いを巻き起こした『アンダーグラウンド』など、主宰・タニノクロウのあふれるイマジネーションを通じ、この世の混沌を描く庭劇団ペニノ。今回はにしすがも創造舎を一つの町に見立て、女性の下着の「見え方」「見せ方」を考察するという。異形と聖性、ユーモアが入り混じるタニノワールドに身を任せろ!

公演日：12/5(土) - 13(日)

会場：にしすがも創造舎

上演時間：未定

12/5(土)	12/6(日)	12/7(月)	12/8(火)	12/9(水)	12/10(木)	12/11(金)	12/12(土)	12/13(日)
19:30	17:00★	19:30	14:00★ 19:30	19:30	19:30	19:30	14:00 19:30	14:00

★終演後ポスト・パフォーマンストークあり

12/6(日) タニノクロウ

12/8(火) タニノクロウ×中井美穂(アナウンサー)

2009年9月5日(土)より前売り開始!

料金：自由席 一般 3,500円 / 学生 3,000円、高校生以下 1,000円(要学生証提示)

お取り扱い：F/T チケットセンター、F/T オンラインチケット、F/T ステーション、

電子チケットぴあ【Pコード：397-086】、イープラス

※F/T回数券(3演目/5演目/10演目)、ペアチケットあり

アーティスト・プロフィール

タニノクロウ Kuro Tanino 劇作家・演出家・俳優



©田中亜紀

1976年富山県生まれ。庭劇団ペニノ代表・作・演出家であると共に、現役の精神科医でもある。2000年、昭和大学医学部在学中に同大学演劇部メンバーと共に「庭劇団ペニノ」を旗揚げ。彫刻や絵画も趣味であるタニノは、空間創造に強いこだわりを持ち、細部まで作りこんだ独創的な舞台セットには定評がある。初めて本格的に執筆した脚本『笑顔の砦』(07年)、子役の教育プログラムとして俳優たちが“擬似家族”を演じるという劇中劇の構成をとった『星影の Jr.』(08年)と、2年連続で岸田戯曲賞最終候補にノミネート。また、台湾、ドイツの演劇祭へ招聘され、海外公演も行っている。最近では、外部作品で古典戯曲と真正面から向き合う精巧で質の高い演出効果を上げ、劇作家・演出家として近年多彩な実力を発揮している。

庭劇団ペニノ Niwa Gekidan Penino

作・演出のタニノクロウを中心に、2000年、昭和大学医学部演劇部を母体として発足。「庭」という一つの抽象的イメージのもと奔放に広がる様々な表現形態を提示する集団として設立。

劇団員は、代表のタニノクロウの他には構成を担当する3名のスタッフのみで、俳優・技術スタッフは所属していない。タニノクロウと構成担当のメンバーで行われる膨大な時間の企画会議の下、作品の骨組みが創られるという独特な創作手法も特徴。

これまでに17回の公演を重ね、大阪・精華演劇祭への参加、台湾・古嶺街小劇場の招きで台湾公演も行っている。また今秋には、ベルリン・HAU(ヘッベル)劇場の招聘も決定している。

／ ⑬ 『神曲—地獄篇』 ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ

演出：ロメオ・カステルッチ【イタリア】



©LUCA DEL PIA

今日の「地獄」を生きる人類の肖像画

イタリアの文豪ダンテの『神曲』に着想を得、今日の形而上学として再構築したロメオ・カステルッチの話題作、堂々の三部連続上演。第一部『地獄篇』では、暗黒の森に迷い込んだアーティストが、自ら犯した罪と、その裁きを激しく問いかける。舞台上に現れる様々な生命と死、創造と破壊の彼方に、今日の「地獄」を生きる人類の果てしない裁きと祈りが鳴り響く。

公演日：12/11(金) - 13(日)

会場：東京芸術劇場中ホール

上演時間：90分

上演言語：英語(日本語字幕つき)

12/11(金)	12/12(土)	12/13(日)
20:30	17:00★	13:00

★終演後 ポストパフォーマンストークあり

ロメオ・カステルッチ× 飴屋法水(演出家・美術家)

2009年10月8日(木)より三部作セット券 前売開始！

料金：12,000円

お取扱い：F/T チケットセンター及び世田谷パブリックシアターチケットセンター(03-5432-1515)にて電話のみ受付

※予定セット数完売次第受付終了となります。

2009年10月18日(日) 単券 前売開始！

料金：指定席 一般 (S)6,500円 (A)5,000円

学生 3,000円、高校生以下 1,000円(要学生証提示)

お取扱い：F/T チケットセンター、F/T オンラインチケット、F/T ステーション、
電子チケットぴあ【Pコード：397-087】、イープラス

※ ペアチケットあり

※ F/T回数券対象外

⑭ 『神曲—煉獄篇』 ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ

演出：ロメオ・カステルッチ【イタリア】



© LUCA DEL PIA

主催：せたがや文化財団、フェスティバル/トーキョー

日常に潜む「煉獄」。おぞましくも美しい残像

第二部の「煉獄」とは悔悛の念を持つ罪人の魂が清められる場所。カステルッチはそれを、繰り返される日常の中に見いだす。不気味なまでに美しく完成されたハイパーリアルな世界。夕食の支度をする母親、頭痛を抱える息子、帰宅する父親…。一見普通の家庭に潜む罪の瞬間と魂の浄化が、見るものの心に強烈な残像を焼き付けるだろう。

公演日：12/19(土) - 21(月)

会場：世田谷パブリックシアター

上演時間：75分

上演言語：英語(日本語字幕つき)

※刺激の強い表現がありますので16歳以上の観劇をおすすめします。

12/19(土)	12/20(日)	12/21(月)
19:00	13:00 / 19:00★	19:00

★終演後ポストパフォーマンストークあり

ロメオ・カステルッチ×鴻英良(演劇評論家)

2009年10月8日(木)より三部作セット券 前売開始！

料金：12,000円

お取扱い：F/T チケットセンター及び世田谷パブリックシアターチケットセンター(03-5432-1515)にて電話のみ受付

※予定セット数完売次第受付終了となります。

2009年10月18日(日) 単券 前売開始！

料金：指定席 一般 6,500円 他

学生 世田谷パブリックシアターの学生会員割引をご利用ください。

詳細は、<http://setagaya-pt.jp/tsss/>

お取扱い：F/T チケットセンター、F/T オンラインチケット、F/T ステーション、

電子チケットぴあ【Pコード：397-088】、イープラス

※F/T回数券対象外

／ ⑮ 『神曲—天国篇』 ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ

演出：ロメオ・カステルッチ【イタリア】



「天国」は存在するのか？ 果てしなき問い

第三部の『天国篇』は、演劇と美術を横断するインスタレーションの形式をとり、観客は孤独に作品の前に立つ。清められた魂が神の愛に触れるはずの「天国」だが、カステルッチは「地獄」「煉獄」よりも残酷な世界として捉える。沈黙が支配し五感を狂わせるような完全な闇の中に、観客は「天国」の存在を垣間みることができるのか？

公演日：12/17(木) - 21(月)

会場：にしすがも創造舎

※ 展示形式のため、入場制限あり。各回、展示時間の30分前に受付終了。

12/17(木)	12/18(金)	12/19(土)	12/20(日)	12/21(月)
15:00～17:30 / 19:00～21:30				

2009年10月8日(木)より三部作セット券 前売開始！

料金：12,000円

お取り扱い：F/T チケットセンター及び世田谷パブリックシアターチケットセンター(03-5432-1515)にて電話のみ受付

※ 予定セット数完売次第受付終了となります。

※ F/T回数券対象外

2009年10月18日(日) 単券 前売開始！

料金：一般・学生共通 500円

お取り扱い：F/T チケットセンター、F/T オンラインチケット、F/T ステーション

※ F/T回数券対象外

※本作品は展示形式のパフォーマンスです。鑑賞時間は個々のお客様によって異なりますが、1分～5分程度(待ち時間は除く)が目安となります。

※演出意図により展示空間で同時に鑑賞できる人数を制限いたしますので、事前予約をお勧めします。

※当日券のお客様は、混雑状況によってご入場頂けない、あるいは長時間お待ち頂く場合がございますので予めご了承ください。

アーティスト・プロフィール

ロメオ・カステルッチ Romeo Castellucci ソチエタス・ラファエロ・サンチオ主宰・演出家



1960年生まれ。ボローニャの美術学校で美術とセノグラフィを学んだ後にカンパニーを結成。90年代の、歴史と悲劇を主題とした作品群(『ハムレット』92年、『オレスティア』95年、『ジュリオ・チェザーレ』97年、『創世記』99年)によって、その名を国際的に知られるようになり、高い評価が確立した。01年から04年にかけてなされた『トラジェディア・エンドゴニディア』シリーズでは、ヨーロッパの10都市(チェゼーナ、アヴィニョン、ベルリン、ブリュッセル、ベルゲン、パリ、ローマ、ストラズブール、ロンドン、マルセイユ、最後に再びチェゼーナ)において、著名な劇場やフェスティバルとの共同制作によって11のエピソードを上演した。

アヴィニョン演劇祭ではかねてから常連であったが、08年にはアソシエート・アーティストとして、ダンテの『神曲』に着想を得た三部作(『地獄篇』、『煉獄篇』、『天国篇』)を一挙に発表するとともに大きな成功を収め、その才能に揺るぎがないことをあらためて見せつけることとなった。

ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ

81年に、ロメオ・カステルッチ(演出)、クラウディア・カステルッチ(作家、姉)、キアラ・グイディ(ドラマトウルク)によって、彼らの生まれ故郷、イタリアのエミリア・ロマーニャ地方にある都市チェゼーナで結成された(ラファエロ・サンツィオはダ・ヴィンチやミケランジェロと並んでイタリア・ルネサンス期を代表する画家で「聖母の画家」との異名をとったラファエロのことである)。その舞台の特徴は、絵画的な額縁舞台を生かして提示される造形性、人を不安にさせずには置かないほどのその完成度、そこに凝縮して込められた隠喩的あるいは寓意的な意味、さらにスコット・ギボンスによるこれまた独特の音響世界にある。06年に制作された『Hey Girl!』以降、クラウディア・カステルッチやキアラ・グイディはそれぞれ独自の道を歩み始め、ロメオ・カステルッチが単独で作品創作を手がけるようになった。キアラ・グイディはスコット・ギボンスとのコラボレーションを続けながら、声の専門的なクラスを開いている。神奈川芸術文化財団にて日本語版の『ブケッティエーノ』の再演の演出もした。クラウディア・カステルッチは「ストア」というリズムとムーヴメントの学校に注力している。

<主要な上演作品 および 受賞歴>

- 92年 『ハムレット』 Hamlet
- 94年 『ブケッティエーノ』 Bucchettino
- 95年 『オレスティア』 Oresteia モントリーオル・アメリカ演劇祭 最優秀国際作品賞(97)
- 97年 『ジュリオ・チェザーレ』 Giulio Cesare ユビュ賞・年間ベストパフォーマンス賞(97)
- 99年 『創世記』 Genesi プレミオ・ヨーロッパ「新しい演劇のリアリティ」賞(00)
- 99年 『夜の果てへの旅』 Voyage au bout de la nuit ダブリン演劇祭最優秀国際作品賞(00)
- 00年 『イル・コンバットメント』 Il Combattimento
- 01-4年 『トラジェディア・エンドゴニディア』 Tragedia endogonia ユビュ賞・特別賞(04)
- 06年 『ヘイ・ガール!』 Hey Girl!
- 08年 ダンテ神曲3部作 『地獄篇』 Inferno, 『煉獄篇』 Purgatorio, 『天国篇』 Paradiso

①⑥ F/T ステーション



©蓮沼昌宏

出る人、観る人、通りすがりの人。「芸劇前」で待ってます！

F/T に集まるアーティストと観客、地域をつなぐ広場、「F/T ステーション」が東京芸術劇場前に出現。チケット購入はもちろん、「F/T って何?」「どんな作品をやっているの?」「今までの作品はどんなもの?」など、さまざまなギモン、お問合せに答えます。関連書籍やオリジナルグッズも販売。併設のカフェではイベントや飴屋法水ライブ等も予定されています。

開催日: 11/13(金) - 12/20(日)

東京芸術劇場前

開館時間: 12:00~22:00

※11/25,12/8,9,10,15,16,20 は 12:00~19:00 イベントによって変更になる場合があります。

休館日: 11/24,30,12/7,14

■伊藤キムプロデュース「おやじカフェ」

「おやじカフェ」: カフェで働くおやじウェ이터が突如パフォーマンスを始める!? F/T09 春でも好評を博した企画がさらにキュートに再登場。

開催日: 計日

11/14(土), 15(日), 21(土), 22(日), 28(土), 29(日), 12/5(土), 6(日), 12(土), 13(日)

営業時間: 各日とも 12:00~22:00(12/6 は 18:00 まで)* 約 30 分おきに、パフォーマンスを披露

入場料: 無料 ※予約なしで自由に入場可。ただし、ドリンク・フードのオーダー必要。

■快快の『GORILLA』

若手演劇チーム快快(ファイファイ)による観客参加型パフォーマンス。伸び伸びとポップに、今を遊ぼう!

開催日: 計 6 日 11/13(金), 20(金), 27(金), 12/4(金), 11(金), 18(金)

時間: 未定

入場料: 無料 ※予約なしで自由に入場可。ただし、ドリンク・フードのオーダー必要。

■ディレクターズ・トーク 11/19(木)21:30~23:00,12/3(木)15:30~17:00 ※詳細は 39P を参照

■『演劇/大学』フォーラム 12/6(日)19:00~21:00 ※詳細は 28P を参照

■ラビア・ムルエ×シャーベル・ハベール ライブ 11/28(土)22:00~ ※詳細は 40P を参照

■飴屋法水×黒田育世×山川冬樹 ライブ 12/19(土)時間未定 ※詳細は 40P を参照

アーティスト・プロフィール

伊藤キム Kim Itoh 振付家・ダンサー



©山口遊

1987年より舞踏家・古川あんに師事。90年、ソロ活動を開始。95年、ダンスカンパニー「伊藤キム+輝く未来」を結成。「日常の中の非日常性」をテーマにした風刺と独特のユーモアを交えた作品を発表。

96年、『生きたまま死んでいるヒトは死んだまま生きているのか?』でバニョレ国際振付賞を受賞し、活動の場を海外にも広げ、その後は、ほぼ年1作のペースで新作を発表。国内に加え、フランス・ドイツ・イギリス・スペイン・アルゼンチン・オランダ・アメリカ・カナダ・デンマーク等にて公演を行っている。

01年、海外から招聘されたカウンターテナー歌手兼ダンサー2名と室内楽演奏家5名を振付・演出し、伊藤キム本人も出演した『Close the door, open your mouth』(製作:新国立劇場)、カンパニー作品『激しい庭』(共同製作:世田谷パブリックシアター、びわ湖ホール)を発表し、第1回朝日舞台芸術賞において、清新な活躍を見せた個人・団体に送られる寺山修司賞を受賞。

劇場内での公演に加え、03年からは、『階段主義』と題し、「階段」という日常的な空間に身体を放り出すことをコンセプトに、パブリックスペースを活用した新たなダンス・パフォーマンスの演出を開始し、これまでに大阪、高知、神戸、東京、佐世保、広島、岩手の7都市にて公演した。

05年、「愛地球博」の前夜祭パレードで総合演出をつとめる。白井剛氏とのデュオ『禁色』、カンパニー作品『未来の記』を発表。05年から06年にかけて、バックパックを背負って半年間の世界一周の旅に出る。07年春より「伊藤キム+輝く未来」から「輝く未来」にカンパニー名称を変えて新たな形態でカンパニーを再始動する。08年度横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。京都造形芸術大学准教授。

快快(ファイファイ) faifai



©加藤和也

2004年結成、13人のメンバーによる東京のカンパニー。

ステージ、ダンスの他、映像制作、ケータリング、パーティ、展示、イベントの企画等、常にたのしく新しい「場」を発信。

私たちが生きている今をポップにパッケージングする、ハッピーオーラ集団。

メンバーは、日本人、外人、コスプレイヤー、デザイナー、料理人、フィギュア作家など様々な属性を持つ。

「今」の複雑さに向かいながらいつのまにか幸福感に満たされてゆく作品性は、たくましい都市と人そのもの。

2009サマーツアーでは、代表作「My name is I LOVE YOU」でヨーロッパ各国を巡る旅へ!

そんな快快についたあだ名は、「トラッシュ&フレッシュな日本の表現者」。夢にまでみた21世紀、みんなで世界を盛り上げよう!

※同メンバーで08年3月末日まで、小指値(コユビチ・koyubichi)として活動。

／ F/T 関連企画

—F/Tをもっと知る・楽しむ—

創作プロセスの見学や関連作品の上映、トークイベントやライブなど、上演作品やアーティストをより深く知り、楽しむための仕掛けをさまざまに提供するのもF / Tの大切な機能。一つひとつの作品に対する理解はもちろん、舞台芸術そのものの魅力や役割を広く、深く伝える企画を通して、アーティストと観客、観客と観客、劇場と社会が繋がる、より豊かな文化環境を形づくっていきます。

■F/Tオープン・スタジオ

F/Tで世界初演される新作は、どこで、どのように創られているのか?特別にアーティストの許しを得て創作現場に潜入し、作品が出来上がる過程を見学します。

『あの人の世界』サンプル

本番直前の創作プロセスに参加できる各回定員5名のプレミアム企画!初回と二回目は見学後に、演出家・松井周自らが新作の構想、そして創作の裏側を語ります。また最終回は通し稽古を見学。本番直前の緊張感あふれる稽古場を体験できます。

10月7日(水) 19時～

10月11日(日) 19時～

10月28日(水) 19時～

会場 / にしすがも創造舎(予定)

無料 / 要申込(ウェブから、各回の1週間前に締切、抽選にて決定) / 各回定員5名

『ろじ式』維新派

東京公演に際してにしすがも創造舎校庭に出現する屋台村「ろじきのろじ」の製作過程の現場を特別に見学。さらに、昨年びわ湖湖畔で上演され、第8回朝日舞台芸術賞アーティスト賞を受賞した『呼吸機械』の上映会を行います。

10月17日(土)・18日(日) 14時～16時半

会場 / にしすがも創造舎、アトリエヘリコプター(第3回)

無料 / 要予約(ウェブから) / 各回定員30名(先着順、定員に達し次第予約終了)

『個室都市 東京』Port B

ツアー・パフォーマンスなど、演劇の枠組みを逸脱した作品で注目を集めるPort B。その創作のプロセスとは、どのようなものなのか?参加者には、実際に池袋西口公園をフィールドワークしながらその過程を体験していただきます。

10月24日(土) 17時～20時 / 池袋西口公園出発、移動あり(予定)

無料 / 要予約(ウェブから、1週間前に締切、抽選にて決定) / 定員10名

■ポストパフォーマンス・トーク

作品上演後に、アーティストやゲストを迎えたポストトークを開催。作品を多面的に知る機会です。

『ろじ式』

松本雄吉×タニノクロウ 10月26日(月) 19:00の回 / にしすがも創造舎

『Cargo Tokyo-Yokohama』

イエルク・カレンバウアー×ゲスト 詳細は決定次第、HP等にて発表

『あの人の世界』

松井周×松本雄吉 11月6日(金) 19:30 の回 / 東京芸術劇場小ホール1

松井周×岩井秀人 11月8日(日) 19:30 の回 / 東京芸術劇場小ホール1

松井周×タニノクロウ 11月12日(木) 14:00 の回 / 東京芸術劇場小ホール1

『個室都市 東京』高山明×ゲスト多数

11月15日(日)～ 22日(日)連日(予定) 詳細はウェブにて

『花は流れて時は固まる』

黒田育世×笠井勲 11月17日(火) 19:30 の回 / にしすがも創造舎

『デッド・キャット・バウンス』

クリス・コンデックほか出演者 11月25日(火)19:00 の回 / にしすがも創造舎

『フォト・ロマンス』

ラビア・ムルエ、リナ・サーネー 11月27日(金) 19:00 の回 / 東京芸術劇場小ホール1

『演劇/大学09秋』フォーラム

参加大学学生+OB・OGの若手演劇人たち 12月6日(日) 19:00～21:00 / F/Tステーション

※詳細は『演劇/大学09 秋』(24 p)参照

『太陽と下着の見える町』

タニノクロウ 12月6日(日) 17:00 の回 / にしすがも創造舎

タニノクロウ×中井美穂 12月8日(火) 14:00 の回 / にしすがも創造舎

『神曲—地獄篇』

ロメオ・カステルッチ×飴屋法水 12月12日(土) 17:00 の回 / 東京芸術劇場中ホール

『神曲—煉獄篇』

ロメオ・カステルッチ×鴻英良 12月20日(日) 19:00 の回 / 世田谷パブリックシアター

■ディレクターズ・トーク

F/Tプログラム・ディレクターがフェスティバルのコンセプトや意義を、各回のゲストとともに検証します。F/Tって、なんだろう? そんな素朴な疑問をお持ちの方も、ぜひディレクターズ・トークにご参加ください。

11月19日(木) 21:30～23:00

ゲスト: 海外のフェスティバルディレクター(予定)

12月3日(木) 15:30～17:00

ゲスト: 小崎哲哉 (REALTOKYO/ART iT 編集長)

■F/Tユニバーシティ

早稲田大学とF/Tが共同で企画する特別講義シリーズ。講師はF/Tで作品を発表するため来日中の世界的アーティストたち。ナビゲーターには日本人の専門家を迎え、アーティストの創作の原点となる思想や問題意識、作品づくりの手法や実験について、主要な作品を題材に詳しく迫ります。

主催: 早稲田大学、フェスティバル/トーキョー

F/Tユニバーシティ Vol.3 ラビア・ムルエ&リナ・サーネー

ナビゲーター: 未定

フランス語(日本語による逐次通訳つき)

11月29日(日)16時30分～19時30分(予定) / 会場未定

*無料 / 要予約(ウェブから) / 定員80名 (先着順、定員に達し次第予約終了)

F/Tユニバーシティ Vol.4 ロメオ・カステルツチ

ナビゲーター: 藤井慎太郎(早稲田大学准教授)

イタリア語(日本語による逐次通訳つき)

12月14日(月)16時~19時(予定) / 早稲田大学国際会議場第3 会議室

* 無料 / 要予約(ウェブから) / 定員 80 名 (先着順、定員に達し次第予約終了)

■F/Tライブ

F/Tに参加中のアーティストたちが、自らライブで炸裂!? F/Tでしか体験できない「あたらしいリアルへ」とトランスするパフォーマンス・ライブ。

維新派 ろじしきのろじ

にしすがもの校庭から、どこかノスタルジックな音楽が聞こえてくる…そこは「路地」の原風景? 懐かしい草のにおい、屋台のにおい、そしてアコーディオンの音。

公演日の開演1時間前~30分前まで にしすがも創造舎 校庭

無料(ただし屋台オーダーは別途) / 予約不要

ラビア・ムルエ×シャルベル・ハベール

レバノンでは音楽家としても活躍するラビア・ムルエとレバノンのエレクトロ・エクスペリメンタルの担い手シャルベル・ハベールによる即興ライブ!

11月28日(土) 22:00~

入場無料(1ドリンクオーダー制) / 予約不要、開演1 時間前より整理券発行

飴屋法水×黒田育世×山川冬樹

即興音楽家としての顔も持つ飴屋法水と、極限まで踊り続けるダンサー黒田育世、そしてアヴァンギャルド・ホーメイ歌手、山川冬樹。何が飛び出すか分からない三人の即興ライブ・パフォーマンス。

12月19日(土) 時間未定

入場無料(1ドリンクオーダー制) / 予約不要、開演1 時間前より整理券発行

■F/Tフィードバック

観劇後の感想やご意見を気軽に書いてみませんか? 会場のアンケート用紙、あるいはウェブ・モバイルサイトから、ご自分のペースで記入いただけます。アンケートに答えてくださった方の中から抽選で50 名様に、F/Tからスペシャルプレゼントを進呈。

■F/Tクルー

フェスティバルを支え、ともに作り上げるボランティアスタッフ=F/Tクルー。舞台制作、広報、ステーション、フェスティバルのあらゆる現場で活躍して頂きます。またF/T期間終了後も、ドキュメント作成作業などのお手伝いを随時募集。募集詳細はウェブ(<http://festivaltokyo.jp/recruit/>)から。

／ F/T 参加作品

F/T と同時期に開催される、トーキョー発の作品群。
都内各劇場、劇団等の協力により集結！

／ ⑰ 『生きてるものはいないのか』五反田団

人はいつか、必ず死ぬ。岸田戯曲賞受賞作、待望の再演

人は死ぬ。死は誰にも平等で、誰にとっても未知の出来事。死体が積み重なっていく様子に世界を重ね、死に直面した者たちの言動に人間存在のおかしみ、輝きを見出した前田司郎の岸田戯曲賞受賞作。最初の演劇はきつと死ぬ真似だったに違いない。生きることも、死ぬ真似かもしれないー。“演劇の原初”を思わせる代表作が、キャストを一新し2年ぶりに登場する。

／ ⑱ 『生きてるものか』五反田団

前田司郎が考えた。「死」から眺めるこの世、再び

岸田戯曲賞受賞作『生きてるものはいないのか』で、死屍累々の世界を通じ、ユーモアと愛にあふれる死生観を描いた前田司郎。その姉妹篇となる新作は『生きてるものは〜』と同様に「人は誰もが死ぬ」という決定的な事実をめぐる展開する。ワークショップを通じて選ばれた個性派キャスト陣にも期待が高まる。

⑰⑱ 作・演出：前田司郎

公演日：10/17(土) - 11/1(日)2本同時上演
会場：東京芸術劇場小ホール1

スケジュール、チケット等詳細のお問合せ先：五反田団
<http://www.uranus.dti.ne.jp/~gotannda/>

／ ⑱ 『赤鬼』

原作：野田秀樹 翻案・演出：プラディット・プラサートーン[タイ]

異質なもの、他者をめぐる野田秀樹の傑作、タイ大衆演劇版で登場

公演日：11/19(木) - 22(日) 2本同時上演
会場：東京芸術劇場小ホール2

96年の初演以来、タイ版、英語版も含め再演を重ねる野田秀樹の傑作『赤鬼』。異文化との出会い、差別や葛藤を描き、97年日タイ共同制作版以後は両国の演劇交流を象徴する存在ともなった作品が、タイ人演出家の手によりタイの大衆演劇『リケエ』版に姿を変え、日本に凱旋！伝統芸能と現代劇の融合で知られるマカムポム・シアターグループの出演で送る。

スケジュール、チケット等詳細のお問合せ先：東京芸術劇場
03-5391-2111 <http://www.geigeki.jp/>

／ ⑳ 『農業少女』

原作：野田秀樹 翻案・演出：ニコン・セタン[タイ]

野田秀樹作品を通じて知るタイの現在

公演日：11/20(金) - 23(月・祝) 2本同時上演
会場：東京芸術劇場小ホール1

野田秀樹の『農業少女』を舞台をタイに置き換え、リメイク。農村と都市、大衆の熱狂とファシズム、歪められていくオーガニックといったモチーフは、現在のタイの状況を予見したかのよう。東南アジアの現代演劇を牽引するバンコク・シアター・ネットワークが、総力を挙げて送るタイ版。タイ、ラオスへの映像配信、現地観客とのライブトーク予定。

スケジュール、チケット等詳細のお問合せ先：東京芸術劇場
03-5391-2111 <http://www.geigeki.jp/>

／ F/T 提携事業

『アジア舞台芸術祭 2009 東京』

東京芸術劇場地下広場に「亞細亞城」出現

公演日：11/25(水) - 29(日)

会場：東京芸術劇場中ホール、小ホール 2 ほか

アジア発の舞台芸術や、東京と各都市の共同制作作品。『アジアンキッチン』(アジア 7 都市の料理をテーマにした新作。作：岩井秀人、神里雄大、夏井孝裕、ノゾエ征爾)。宮城聰セレクトによる『東京舞台 LIVE 版』(参加：Ort-d.d、shelf、第七劇場、チェルフィッチュ、中野成樹＋フランケンズ、ひよっこ乱舞、富士山アネットほか)。

全公演無料 スケジュール等詳細のお問合せ先：

アジア舞台芸術祭制作オフィス 03-3477-0807

／ F/T チケット情報

F/Tパフォーマンス チケット 2009年9月5日(土)前売開始

※『神曲—地獄篇／煉獄篇／天国篇』は三部作セット券:10月8日(木)、単券:10月18日(日)前売発売

※F/T参加作品は対象外

※前売発売日9/5(土)に、F/Tのプログラムに関するプレトークを実施予定!詳細は決定次第HPにて。

チケット取扱

○F/Tチケットセンター

03-5961-5209(12:00-19:00)無休

※前売開始日9/5(土)・10/8(木)・10/18(日)のみ10:00より受付

○F/Tオンラインチケット(要事前登録・無料)

<http://festival-tokyo.jp/>(パソコン)

<http://festival-tokyo.jp/m/>(携帯)

○F/Tステーション(東京芸術劇場前)

※10月17日(土)より取扱い

○電子チケットぴあ

0570-02-9999(Pコード予約)

<http://pia.jp/t/>

(『Cargo Tokyo-Yokohama』、『個室都市 東京』、『演劇/大学09秋』、『神曲—天国篇』は対象外)

○イープラス

<http://eplus.jp/ft09/> (パソコン・携帯)

(『Cargo Tokyo-Yokohama』、『個室都市 東京』、『演劇/大学09秋』、『神曲—天国篇』は対象外)

- 指定席の場合、開演時間に遅れたお客様はご指定のお席にお座りいただけない場合がございます。
- 自由席は整理番号つきで販売します。
- 未就学児童のご入場はお断りさせていただきます。
- 受付開始及び当日券の販売は開演1時間前、開場は30分前からとなります。
- チケットの払戻し、観劇日時の変更はできません。
- チケット料金には消費税が含まれます。

F/Tパフォーマンスを、選んで観る/誘って観る/学生も観る。 フェスティバル/トーキョーならではのお得なチケットでお楽しみください。

※F/T回数券・ペアチケット・学生料金チケットは、F/TチケットセンターおよびF/Tオンラインチケットのみ取扱い

／ F/T 回数券 選んで観る！

(『Cargo Tokyo-Yokohama』、『個室都市 東京』、『神曲』三部作は対象外)

3 演目 ¥10,000 (¥3,333/枚)、5 演目 ¥15,000 (¥3,000/枚)

※お好きな演目を選んでご覧いただけます。

10 演目セット ¥27,000(¥2,700/枚)

※F/T回数券のお取扱いについて

- まず回数券をご購入ください。観劇演目・日時が未定でもご購入いただけます。
- ご購入後、演目・日時の予約(ウェブ・電話)を受付けます。
- チケットの払戻し、観劇日時の変更は出来ません。
- 予約なしでも回数券ご提示の上、当日ご入場いただけます。
但し満席時にご入場いただけない場合もございますので事前の予約をお勧めいたします。
- 回数券はご本人様のみ有効です。
- 回数券は限定枚数の発売です。予定枚数完売次第受付終了となります。
- 『演劇/大学 09 秋』は 1 演目分で全てご覧いただけます。
- 1 演目につき観劇は 1 回までとさせていただきます。

／ ペアチケット 誘って観る！

(『Cargo Tokyo-Yokohama』、『個室都市 東京』、『演劇/大学 09 秋』、『神曲—煉獄篇/天国篇』は対象外)

チケット 2 枚分の料金から 10%OFF でご購入いただけます。(例/¥4,500×2 枚=¥9,000→¥8,100)

※2 名同日同時観劇のみお受けいたします。

※当日券のご用意はございません。

／ 学生料金 学生も観る！

(『Cargo Tokyo-Yokohama』、『神曲—煉獄篇』は対象外)

学生 全演目 ¥3,000(要学生証提示) 高校生以下 全演目¥1,000(要学生証提示)

※1 申し込み 1 枚となります。

※東京芸術劇場中ホール公演はA席 ※当日でもご購入できます。※ご本人様のみ有効です。

※『神曲—煉獄編』は、世田谷パブリックシアターの TSSS 学生会員割引をご利用ください。詳細は
<http://setagaya-pt.jp/tsss/>

3 演目	¥10,000 (¥ 3,333/枚)	10 演目セット	¥27,000 (¥2,700/枚)
5 演目	¥15,000 (¥ 3,000/枚)	ペアチケット	10% OFF

／ 『神曲—地獄篇/煉獄篇/天国篇』 単券、三部作セット券

『神曲—地獄篇/煉獄篇/天国篇』三部作セット券は、10月8日(木)前売開始 ¥12,000

F/Tチケットセンター及び世田谷パブリックシアターチケットセンター(TEL 03-5432-1515)にて電話のみ受付。

※予定セット数完売次第受付終了となります。

単券 10月18日(日)前売開始

／ メイン会場

フェスティバル/トーキョーは、東京都・豊島区・池袋を中心に、4つのメイン会場と、世田谷パブリックシアターで開催されます。

／ 東京芸術劇場

(運営:財団法人東京都歴史文化財団)

東京芸術劇場は、東京都が都民のための音楽・演劇・舞踊等の芸術文化の振興とその国際交流を図るため、平成2年10月に開館しました。施設として大ホール、中ホール、小ホール1、小ホール2ほか、会議室や展示ギャラリー等を運営しています。フェスティバルでは中ホールと小ホールを主に使用します。平成21年には、野田秀樹氏が東京芸術劇場の初代芸術監督に就任しました。



／ あうるすぽっと

(運営:財団法人としま未来文化財団)

あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)は、演劇を中心とした舞台芸術の発信・創造・育成のための劇場として、平成19年9月に開館しました。301席のコンパクトで臨場感あふれる、観る人にも、創る人にも親しまれる劇場です。劇場プロデュース公演や提携公演などを中心にした公演プログラムと、ワークショップやレクチャーなどの育成プログラムを展開し、発信する劇場として注目されています。



／ にしすがも創造舎

(運営:NPO法人アートネットワーク・ジャパン、NPO法人芸術家と子どもたち)

にしすがも創造舎は、中学校の閉校を転用し、文化芸術創造の拠点として、平成16年8月に開館しました。稽古場施設を中心に、より開かれた形をめざしアートと地域を結ぶ多様なアートプログラムを展開しています。元体育館を転用した200席の特設劇場は、東京国際芸術祭(TIF)のメイン会場として、開館当初からアーティストの活動を支えてきました。フェスティバル/トーキョーでも、可動する空間の特性を活かし、国内外の演目を上演予定です。



／ シアターグリーン

(運営:シアターグリーン)

シアターグリーンは、寺院の社会事業として演劇活動の場を提供する事を考え、新劇団の育成・若手劇作家の新作発表・実験的演劇等を目的に掲げて昭和43年に開館しました。以来小劇場という狭小空間から常に“演劇の熱”を発し続け、今では小劇場の老舗として若手劇団の登竜門となりました。平成17年には三つの小劇場のシアターコンプレックスとしてリニューアルし、多種多様な舞台を提供しています。幅広い観客層に向けての「グリーンフェスタ」「学生芸術祭」等も開催しています。



／ フェスティバル/トーキョー 組織委員

天児牛大	振付家・演出家
池田弘一	アサヒビール株式会社代表取締役会長兼 CEO
扇田昭彦	演劇評論家
永井多恵子	社団法人国際演劇協会 (ITI/UNESCO) 日本センター会長
蜷川幸雄	演出家
野田秀樹	演出家
野村萬	狂言師
林省吾	財団法人地域創造理事長
福原義春	株式会社資生堂名誉会長

(五十音順)

／ フェスティバル/トーキョー主催

東京都

東京文化発信プロジェクト室(財団法人東京都歴史文化財団)

フェスティバル/トーキョー実行委員会

豊島区、財団法人としま未来文化財団、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン

名誉実行委員長	高野之夫	豊島区長
実行委員長	市村作知雄	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 会長
副委員長	東澤昭	豊島区文化商工部長
委員	上野仁志	豊島区文化商工部文化デザイン課長
	望月治男	財団法人としま未来文化財団 常務理事/事務局長
	荻原美智子	財団法人としま未来文化財団 部長
	蓮池奈緒子	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 代表
	相馬千秋	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン プログラム・ディレクター
監事	鈴木達	豊島区総務部参事
	田代富保	社団法人企業メセナ協議会 事務局長

法務アドバイザー 福井健策、北澤尚登(骨董通り法律事務所)

／ フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

プログラム・ディレクター	相馬千秋
事務局長	蓮池奈緒子
事務局長補佐	宮崎あかり
広報	及位友美、ハッセル、タラ・石塚、堀江紗恵
制作	武田知也、植松侑子、クラウドハイム・ウルリケ、小滝友見子、米山淳一、板橋園恵
制作補	宇津木信之介
票券システム	清水言一
票券管理	辻奈都子、長原理江
インターン	荒川真由子、小野塚央、寺田貴美子

技術監督	寅川英司
照明コーディネート	佐々木真喜子(株ファクター)
音響コーディネート	相川晶(サウンドウィーズ)
PR	(株)コミュニケーションデザイン
宣伝美術	アジュール(佐藤直樹+西ひろみ+中澤耕平)
ウェブディレクション・デザイン	(株)Synchronicity
ドキュメント・コーディネート	遠藤豊(LUFTZUG)
舞台写真	石川純
パンフレット執筆	尾上そら
物販	渡辺淳
翻訳サポート	ウィリアム・アンドリュース
編集・執筆	鈴木理映子

お問合せ

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局
〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨 4-9-1 にしすがも創造舎
NPO 法人アートネットワーク・ジャパン内

TEL 03-5961-5202 / FAX 03-5961-5207 toiawase@anj.or.jp <http://festival-tokyo.jp/>